

 臨床像

臍ヘルニア(いわゆる、でべそ)は、臍帯脱落后の臍輪の癒痕収縮が不完全な新生児初期に、何らかの原因で腹圧が亢進することにより臍輪の開存が遷延して、臍輪から腹くう内臓器が脱出した状態である。臍帯脱落后から生後1ヶ月までに発症することが多い。発症初期は臍部がわずかに隆起する程度であるが、そのまま放置すると次第に皮膚が伸展し、ヘルニア内容の脱出が増大し、2~4ヵ月時には最大となる。その後、多くは縮小に転じ、生後1年までに90%が自然治癒する。ヘルニアかん頓や破裂などの合併症はごくまれである。臍ヘルニアは外来診療で数多く見られる疾患であるが、以上のことから乳児期に外科的処置を必要とするものは少ない。治療開始時期は、美容面を考慮すると可及的早期に開始することが重要である

 保存的治療法

● スポンジ圧迫法

使用物品:①エラストン(接着剤のついたスポンジシート)

②テガダーム6×7cm大(透明なフィルムテープ)

方 法:①臍の陥凹に適合する大きさに切ったエラストンをテガダームの中央に接着剤の面をあわせるように貼る。

②脱出したヘルニア内容を還納させた後、エラストンを臍部に押し当て圧迫しながらテガダームで被覆する。

*このとき、皺ができないように注意する。

*皺ができた場合はエラストンと外面とが交通し入浴の際に水が入り込むため、テガダームを貼り直す

③自宅で3~4日毎に交換する

*テガダームを剥す際は、ゆっくりやさしく剥し皮膚を傷つけないようにする

合併症:①接着剤の接触皮膚炎

②アトピー性皮膚炎の家族歴のある患児